

平成23年 3月31日

財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 財団法人 筑波メディカルセンター
筑波メディカルセンター病院

代表者 病院長 軸屋 智昭 印



平成22年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研究・研修事業 平成22年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業
2. 期 間 平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日
3. 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記I～IIIをA4縦・横書 6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ①助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可)
※決算期の関係で平成23年3月18日(金)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
(提出予定日 平成23年 5月 31 日)
 - V 研修修了者報告書

以上

平成22年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業

筑波メディカルセンター病院 緩和医療科

診療部長 志真泰夫

I.事業の目的・方法

1) 目的

本研究事業の緩和ケア専門研修においては、当院での緩和ケア病棟での研修のみならず、連携する聖隷三方原病院緩和支援療法科においても研修を行う計画である。当院では訪問診療など地域医療との連携に重点をおいた研修も行う予定である。そして、聖隷三方原病院緩和支援療法科では緩和ケアチームと臨床研究の基本を習得するための研修を予定している。これらの幅広い研修を通じて1年間で緩和医療専門医として必要な知識・技能の習得を目指すことを目的としている。

2) 方法

山口 崇医師（以下、山口医師）は、平成16年4月より手稲溪仁会病院において初期臨床研修および総合内科の後期研修を行い、総合内科医としての研鑽を積むとともに、その期間中に同病院の緩和ケアチームの立ち上げに携わった。その過程において緩和医療に関する専門施設での研修や地域医療での研修の必要性を感じ、平成20年4月より総合内科研修の一環として当院 緩和医療科にて緩和ケア病棟の短期研修を行い、その後大和クリニックでの訪問診療の短期研修を行った。

山口医師は、臨床研修医時代に緩和ケア先進国のひとつであるオーストラリア（アデレード）において研修を行い、その時にオーストラリアの先進的な地域緩和ケアシステムを目の当たりにして、帰国後、わが国での緩和医療専門医資格の取得を目的として更に緩和ケアの研修を続けたいと考え、当院および連携の病院で質の高い病院内および地域の緩和ケアチームをどのように構築していくか、さらに緩和ケアにおける臨床研究の基本を学ぶための研修を行いたいとの希望があり、貴財団の「ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業」に応募した。

山口医師の専門フェローシップ研修の具体的目標として、1) 緩和医療の幅広い臨床能力と臨床研究のための基本能力を身に付けること、2) 地域における医療連携を研修することとした。研修年限は1年間とし、研修プログラムは当院緩和医療科と聖隷三方原病院緩和支援療法科における院内研修を組み合わせるやり方で計画する。

3) 具体的な研修計画

○緩和ケア病棟研修

緩和ケア病棟における急性期の入院患者を対象として専門的な症状マネジメントやチームアプローチについて研修を行い、緩和ケア病棟における診療を会得することを目的とする。

○緩和ケアチーム研修

一般病棟における入院患者のコンサルテーションを担当し、症状マネジメントと心理社会的問題への対応を経験し、さらに、患者、家族のマネジメント、医療チームのマネジメントについてもコンサルテーションを通じて研修することを目的とする。

○在宅緩和ケア研修

地域医療における在宅緩和ケアのマネジメント、さらに地域の診療所、訪問看護ステーション等との連携、救急対応を研修することを目的とする。

○ 臨床研究の基本研修

緩和ケアの領域における臨床疑問を解決するための臨床研究の基本を学ぶ。研究計画書の作成、研究の進め方、論文投稿の基本的な事項を研修することを目的とする。

II.研究事業内容・実施経過（資料参照）

山口医師は、筑波メディカルセンター病院に緩和医療科専門研修フェローとして、勤務し、緩和医療を専門分野として、将来、診療のみでなく教育、研究などにも携わるという目的で、プログラムを組むこととした。

○平成22年4月1日～7月31日（緩和医療科）

山口医師は筑波メディカルセンター病院に緩和医療科専門研修フェローとして勤務し、緩和ケア病棟の病棟医として、実際の臨床を研修した。指導医の下でおよそ30例のがん患者を担当し、専門的な緩和医療を経験することができた。さらに、週1回の在宅緩和ケアの研修を実施した。

○平成22年8月1日～平成22年11月30日（聖隷三方原病院緩和支援療法科）

山口医師はこの期間、聖隷三方原病院 緩和支援療法科にて指導医（森田達也医師）の下で一般病棟のコンサルテーション診療に従事し、がん患者の抗がん治療と緩和ケアを同時に提供する臨床を経験した。

○平成22年12月1日～平成23年3月31日（緩和医療科）

山口医師は聖隷三方原病院緩和支援療法科で緩和医療科専門研修フェローとして勤務すると同時に筑波大学大学院人間総合科学研究科のがんプロフェッショナル養成コース（指導医 木澤義之、前野哲博）と提携し、緩和ケアに関する臨床研究を研修した。

III 専門研修の成果

山口医師が笹川医学医療研究財団「平成22年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業」に応募して受けることができた「専門研修」は、筑波メディカルセンター病院 緩和医療科と聖隷三方原病院緩和支援療法科が連携して行う、緩和医療専門医を目指している医師に対する教育プログラムとしては初めての試みであった。今回は研修プログラムの作成をはじめ手探りの状況であったが、一定の成果を上げることができた。山口医師は、平成23年4月から手稲溪仁会病院医員として緩和ケアチームや外来診療等の専門緩和ケアに従事する予定である。

平成22年 緩和医療科フェローシップ研修プログラム

年間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修内容	筑波メディカルセンター病院緩和医療科研修			聖隷三方原病院緩和支援療法科研修			筑波大学大学院・聖隷三方原病院研究研修					

週間
4月～7月

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟回診(月1回)
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	診療所	

8月～11月

	月	火	水	木	金	土
午前	チーム	チーム	チーム	チーム	チーム	
午後	チーム	チーム	チーム	チーム	外来	

12月～3月

	月	火	水	木	金	土
午前	チーム	チーム	チーム	チーム	チーム	
午後	研究	研究	研究	研究	研究	